

特別記事

韓国ソウル大学獣医学部の獣医学教育国際認証組織 American Veterinary Medical Association (AVMA)認証へのロードマップ

帯広畜産大学 臨床獣医学研究部門 大動物外科学研究室 佐々木直樹

韓国ソウル大学獣医学部と岐阜大学大学院連合獣医学研究科(岐阜連大)の第5回ジョイントワークショップが平成24年(2014年)2月18日(火)に開催された。今回、その概要ならびにソウル大学獣医学部の獣医学教育国際認証組織American Veterinary Medical Association (AVMA)認証へ向けた取り組みについて紹介する。

ソウル大学でのジョイントワークショップ

昨年まで岐阜連大とソウル大学獣医学部の共同で開催されてきたワークショップに台湾大学を加え、アジア3大学によるジョイントワークショップがソウル大学において開催された(Figure 1)。岐阜連大構成大学の帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学および岐阜大学の教員9名ならびに博士課程大学院生8名が参加した。ソウル大学の教員ならびにマスターコース(修士2年)とドクターコース(博士3

年)の大学院生が参加した他、台湾大学からも教員1名と学生2名が参加した。まず、所属大学の教授4名によるKeynote Lectureが行われ、つづいて学生23名(日本12名、ソウル大学9名、台湾大学2名)の口頭発表(使用言語は英語)が行われた。また、ポスター発表として11名(日本7名、ソウル大学4名)の学生による発表があった(Figure 2)。全演題中、岐阜大学大学院1年生井爪聰子さんの発表した演題「Characterization of viral protein US8A from equine herpes virus 1」は、馬のヘルペスウイルスに関する基礎的研究であり、留学経験を生かした発表が評価され、Excellent Presentation Awardを受賞した。このワークショップは学生のスキルの向上を目的に開催されてきたが、5回目を迎えて日本人大学生の英語プレゼンテーションの質は着実に向上している。今後、大学再編の動きの中で形を変えつつも学術交流を継続していくことが望まれた。



Figure 1 韓国ソウル大学獣医学部動物病院正面
ソウル市内獣医学部には小動物専用の
動物病院があり、大動物診療は180km
離れた産業動物飼育施設に建設された
診療施設において実施していた。



Figure 2 ジョイントワークショップにおけるポ
スター発表の様子
ソウル大学マスターコースの学生達が
熱心に聴講していた。

ソウル大学の獣医学教育制度

韓国には獣医系大学が10大学(国立9大学、私立の建国大学)あり、一般教養課程2年間に続けて獣医専修課程4年間の6年制の学部教育を実施している。また、ソウル大学では6年間の学部教育を卒業した学生の多くが、マスターコース(2年)に進み、その後ドクターコース(3年)もしくはマスタードクター合同コース(4年)へ進学する(Figure 3)。日本の学部教育にみられる卒業論文や研究室配属は、マスターコースならびにドクターコースで実施している。現在、ソウル大学獣医学部の教員(教授・准教授・講師)は40名であり、近年グローバル化を進めており外国人教員(ドイツ人、アメリカ人、日本人など)を採用している他、学部教育の30%、大学院教育の80%が英語での授業となっている。また、獣医学部の12名が臨床系教員(外科3名、放射線2名、野生動物1名、眼科1名、内科2名、繁殖1名、臨床病理1名、皮膚1名)としてポリクリ(参加型臨床実習)を担当している。各教員には6名程度のサポートイングスタッフ(インターン、大学院生)がポリクリ(参加型臨床実習)を支えている。



Figure 3 動物病院処置室
診療終了後にマスターコース学生達が症例のまとめを行っていた。

獣医学教育国際認証組織American Veterinary Medical Association (AVMA)

現在、獣医学教育の国際的認証組織として、American Veterinary Medical Association (AVMA)とEuropean Association of Establishment for Veterinary Education (EAEEVE)が世界的に認知されている。AVMAはアメリカ28獣医科大学と同等の教育水準にあるかどうかを査察評価する組織であり、AVMAの認証にパスした大学を卒業した学

生は、アメリカやカナダなどにおいて獣医師採用試験の受験資格を得て、獣医業務を行うことが許可される。2014年現在、AVMAの認証をうけている国はアメリカ28大学、カナダ5大学、オーストラリア4大学、イギリス1大学、アイルランド1大学、メキシコ1大学、オランダ1大学、ニュージーランド1大学、スコットランド2大学、西インド諸島2大学となっている。まず、AVMA認証の申請は2012年4月にAVMAより発行された「Accreditation Policies and Procedures of the AVMA Council on Education」に記載されている資料を作成しなければならない。この中にはAVMAの認証のためにクリアしなければならない条件として11項目(組織、資金、教育施設、臨床例、図書および情報源、MSおよびPhDのプログラム、承認、教員、カリキュラム、研究の義務、結果評価)が定められている。特に、臨床カリキュラムについて唯一数字をあげて下記のように明確な条件を提示している。すなわち、AVMA認証条件として「1. 臨床例について、臨床経験を積み上げるだけの十分な内科および外科の症例を用意しなければならない。2. フィールドにおいて臨床経験をつめる環境を整備し、討論する機会を与えなければならない。3. そのカリキュラムは4年間必要であり、参加型臨床実習を1年含む必要がある。」と明示されており、ポリクリ(参加型臨床実習)には1年間を要するとされている。最近、AVMAの認証に新たにパスした大学は、クイーンズランド大学、メキシコ国立自治大学、ロス大学、セント・ジョージ大学であり、香港城市大学とソウル大学はアジア初のAVMA認証大学を目指して教育改革を行っている。

ソウル大学の臨床獣医学教育の取り組み

学部教育6年目にはポリクリ(参加型臨床実習)が科されていて、4名で10班のグループを形成し、動物病院の10箇所の診療科(眼科、内科1・2・3、整形外科、一般外科、腫瘍外科、麻酔科、馬診療、牛診療など)をローテーションしながら指導をうける(Figure 4, 5)。従来、ソウル大学では半年間のポリクリを実施していたが、AVMA認証に向けてポリクリ期間を1年間(52週間)に延長した(Figure 6)。首都中心部に位置するソウル大学は、長年小動物臨床教育に特化した獣医学教育を実践してお

り、大動物臨床教育については郊外の農場や韓国競馬会(KRA)での数日間の研修で対応してきた。今回、AVMAの認証をパスするために、これまでの教育カリキュラムを見直すとともに、産業動物飼育診療施設(馬、牛、豚など)をソウル大学より180km離れた農場内に建設した(2014年4月完成)。この施設は全国共同利用施設として、全国10カ所の大学の産業動物臨床実習を年間通じて行うため、国家予算(日本の農水省に相当)が投じられている。プロジェクトリーダーの李先生によれば、日本のNOSAIの研修制度を参考にした卒業後5年目や10年目の獣医師を対象とした卒後教育の実施計画を進めている。



Figure 4 学生自習室。6年生は国家試験の勉強用に各自に机が割り当てられていた。

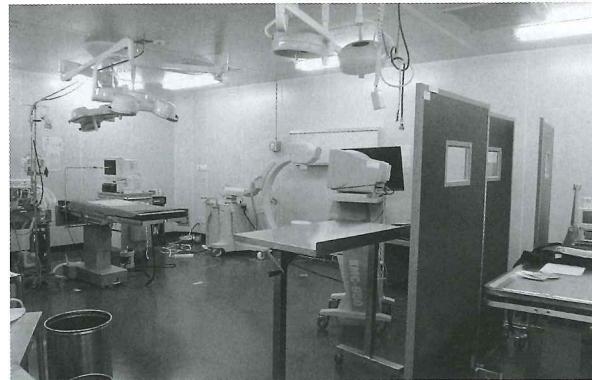


Figure 5 整形外科手術室
小動物の整形外科専用手術室として放射線防護が施されていた。



Figure 6 ポリクリ(参加型臨床実習)の様子
5年生が畜主から稟告を聴取していた。
5年生は各診療科をローテーションしながら1年間のポリクリを行った。

結語

AVMA認証のためのリスト作成は大学事務職員のみでは困難なため、ソウル大学では獣医学領域全般の知識と経験を有する臨床獣医師を新たに雇用し、4ヶ月間を費やしてリストを作成した。ソウル大学では2014年6月にAVMA認証の第一段階となるアドバイスを求める5日間の査察を受け入れる予定である。そこで指摘を受けた事項について改善を図り、アジアで最初のAVMA認証大学を目指している。今後、日本においても獣医学教育機能強化が整った大学から国際認証組織の認証を受けるための準備が加速するものと思われる。従来の日本の獣医学教育カリキュラムでは不十分であった参加型臨床実習(小動物、牛、馬など)、獣医公衆衛生、動物福祉、獣医師倫理、法律の分野を補強しつつ、国際水準の獣医学教育システムの構築が期待された。